東郷４小 139年 終幕

惜別，旅立ち…涙と笑顔と

本年度で閉校する薩摩川内市東郷地区の藤川，南瀬，鳥丸，山田の各小学校の記念式典が，１２日から２０日にかけてあった。いずれも１８７８（明治１１）年の創立。児童や教職員，多くの卒業生らに惜しまれながら，１３９年の歴史に幕を閉じた。　（室園喬，常深さゆり）

４校は４月から東郷小学校に統合され，２年後には東郷中学校を合わせて市内初の小中一貫校になる予定。

南 瀬 小

南瀬小の式典は１８日あり，児童１４人と卒業生，保護者ら約２００人が参加した。6年の木場菜々美さん，笹野花さんが別れの言葉を述べ，学校に感謝状を贈呈。児童が自ら作った閉校記念ソング「キラリ輝くんだ南瀬っ子」を合唱すると，涙ぐんで聴き入る参加者もいた。

学校名	在校生	参列者	閉校月日
南瀬小	14名	200名	３月18日（土）
鳥丸小	22名	300名	３月19日（日）
藤川小	９名	300名	３月12日（日）
山田小	12名	300名	３月20日（月）

鳥 丸 小

１９日あった鳥丸小では，児童２２人が壇上に上がり，地域への思いを込めて約３００人の参加者と唱歌「ふるさと」を歌った。知識清子校長と一緒に校旗を返納した６年の向井明莉さんは，「下級生とはいったん離れるけど，小中一貫校でまた会えるのが楽しみ」とほほ笑んだ。

藤 川 小

１２日あった藤川小の式典には，全校児童９人と卒業生ら約３００人が参加。母校の歩みを振り返り，記念碑を除幕した。最後のＰＴＡ会長を務めた久保孝志さん（40）は「閉校は寂しいが，多くの人が再会するきっかけにもなった。母校に感謝したい」と話した。

山 田 小

２０日の山田小はあいにくの天気。閉校を惜しむような“涙雨”の中，記念碑の除幕を約３００人が見守った。卒業生の田口フヨさん（80）は「閉校が決まった時は気持ちがしゅんとなった」と残念そう。「でも山田の子は元気だから，新しい学校でもきっと大丈夫」と期待を込めた。

閉校記念ソングを合唱する南瀬小学校の児童＝18日、薩摩川内市の同校

校旗を返納する鳥丸小学校の知識清子校長
（中央）と６年の向井明莉さん
＝19日、薩摩川内市の同校

記念碑を除幕する藤川小学校の児童と関係者
＝12日、薩摩川内市の同校

お別れの言葉を述べる山田小学校の児童＝20日、薩摩川内市の同校

公示地価

鹿県内 25 年連続下落

上昇地点は 6 増の 15

国交省が２１日に発表した２０１７年１月１日時点の鹿児島県内の公示地価は，２５年連続でマイナスだった。鹿児島市で再開発事業への期待感や堅調なマンション需要に支えられ，住宅

地，商業地ともに上昇地点は増えたが，地方では人口減少に歯止めがかからず，県全体として下落傾向は変わっていない。

薩摩川内市

A	大小路町40-22	33.5	33.9	▲1.2
A	宮内町字学藤1832-1	27.1	27.5	▲1.5
A	入来町副田字馬渡5627-14	8.2	8.4	▲2.4
A	平佐町字天神坊4216-18	29.2	29.5	▲1.0
A	宮崎町字春日原2864-26	21.2	21.5	▲1.4
A	樋脇町市比野字小嶺3200-48	18.1	18.9	▲4.2
A	樋脇町塔之原字西田間田650外	9.1	9.3	▲2.2
A	入来町副田字立山5955-41	11.0	11.3	▲2.7
C	西向田町18-25	95.6	96.9	▲1.3
C	東向田町15-9	65.0	65.8	▲1.2
C	中郷2-7-8	54.3	55.3	▲1.8
C	樋脇町市比野字宮元99-1外	28.1	29.1	▲3.4
C	入来町浦之名字木場原7577-2	15.7	16.3	▲3.7

一覧表の見方

▽土地の用途区分
A＝住宅地、B＝宅地見込み地、C＝商業地、E＝工業地
▽住居表示または地番
▽価格
2017年1月1日現在の価格、前年価格の順
1平方㍍当たり、千円単位。小数点1位で百円まで表示、百円未満は切り捨て（例＝19万3500円の場合「193.5」）
前年価格の「―」は選定替えによる新地点
▽変動率（%）の「▲」表示はマイナス
「※」は昨年秋の基準地価との共通地点で16年7月1日の価格、変動率

調査した地価公示幹事の大吉修郎不動産鑑定士は「鹿児島市は計画されている再開発が動き出せばさらに活性化が期待できる。一方，人口減が進む地方では土地需要が少なく上昇する要因はあまりない。今後も鹿児島市と郡部の差は開くと考えられる」と話した。　（上柿元大輔）

商品ニュース

◆薩摩川内大綱あられ　アトスフーズ（薩摩川内市）が発売した＝写真。同市名物の「川内大綱引」をモチーフにした綱形のあられで、甑島産のタカエビ粉末とこしき海洋深層水塩を使用している。川内駅1階「駅市」など同市内の物産館、道の駅で扱う。90グラム入り、360円（税別）。

鳥獣侵入防止柵 1,437キロ整備　鹿県対策推進会議

鹿児島県鳥獣被害防止対策推進会議が２１日，県庁であった。県は，国の交付金を使った侵入防止柵の整備が２０１３年度から１６年度の４年間で長さ１，４３７キロとなり，５年間で１，６００キロとした整備目標に対する進ちょく率は９割と報告した。

１６年度は前年比５９％増の２億４，４００万円が交付され，最終的に２６８キロが整備される見込み。ただ，農家などの整備要求に対する充足率は５０％（金額ベース）で，交付金拡充へ県と市町村の連携が必要との意見が出た。

農林産物への被害は１２年度をピークに減っている一方，県猟友会は「サルやイノシシが農地と住宅地の混在地に下りてくる頻度が増えている。人への被害が心配だ」と指摘した。　（小野智弘）

人が足りない　かごしま雇用事情　第3部　新たな動き　③

高齢者雇用

経験生かし〝隙間〟補う

夕食時間帯を迎えた、特別養護老人ホーム幸せの里（薩摩川内市）。パートの地徳カズミさん（69）が、手際よく配膳や利用者への声かけをしていた。

勤務は夕食準備が始まる午後4時から、利用者が寝静まる午後9時までの「繁忙時間帯」。正職員が専門的な介護に打ち込めるよう、洗濯や掃除、洗い物といった周辺業務を一手に引き受ける。

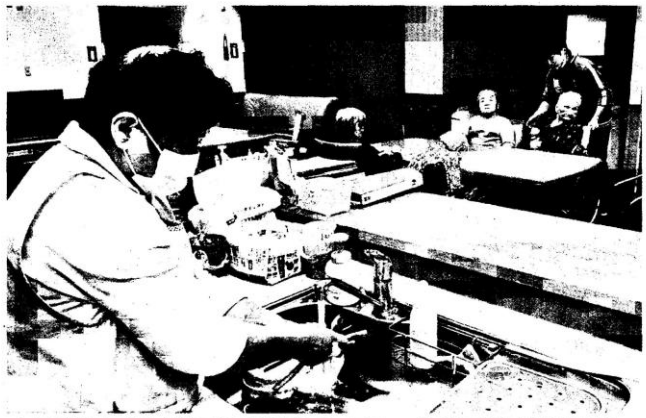
「年金以外の収入が得られる上、経験を生かせてありがたい」。地徳さんは別の介護施設で10年以上ヘルパーとして働いた経験を見込まれ、2年前に誘われた。「体力的に身体介護は難しいが、支援に必要な視点は備えているつもり」と頼もしい。幸せの里では、地徳さんのような高齢者が約10人働いている。

鹿子木努施設長（68）は「何よりサービスの質を維持できる。繁忙時間帯は子どもを持つ職員が帰宅したい時間とも重なり、家庭との両立を確保する面からも助かる」と明かした。

■□■

マックスバリュ九州（福岡市）は昨年12月、パートの定年を65歳から70歳に引き上げ。食品加工などの技術を持つ人材確保をねらう。武岡店（鹿児島市）ではパート・アルバイト110人のうち、技術力を生かした継続雇用の2人を含む4人の高齢者が勤める。

5カ月前に未経験で採用された、巻きずし作り担当の上田平知子さん（65）＝鹿児島市＝は、「自宅にいるより充実し、若い人との交流も持てる」と笑顔。河野良店長（52）は「水産加工や総菜作りは、家庭での経験が生きる。未経験や短時間でも、意欲があれば大歓迎」と強調した。



正職員が介護に専念できるよう、食器の片付けをする地徳カズミさん（左）
＝1月末、薩摩川内市の幸せの里

1999年の創業時から高齢者を雇用するラーメン店「麺'sら.ぱしゃ」（鹿屋市）でも、60代前後のパートは欠かせない。野元久男会長（57）は「（子どもに関する）学校からの急な呼び出しがない。年齢が高くても、工夫次第で長く続けてもらえる環境は整えられる」と胸を張る。

■□■

「現役世代の補完を超える役割を担い始めた」。県シルバー人材センター連合会の藤山幸一会長は驚く。

県内34のセンターへの依頼は、2年ほど前から急増。レジ打ちや調理補助、清掃など内容は幅広い。連合会によると、2016年12月末現在の受注は合計で830件。年度末には1100件を上回り、年200件台だった10～12年度の4倍以上になると推計している。

大型車販売の南九州日野自動車（鹿児島市）では、センターの会員5人がシフトを組んで洗車作業にあたる。

青山陽一総務部長（60）は「労務管理や求人コストを考えると、センター活用のメリットは大きい」。江口政昭さん（70）は、「人とのつながりが持てる。やりがいがあり、元気なうちは続けたい」と意欲を見せた。

鹿児島労働局によると昨年6月現在、県内約2千社（従業員31人以上）の65歳以上の常用労働者（パート含む）は約1万2800人。5年前の2倍を超えた。中小企業を中心に高齢者雇用の動きは加速している。

平成２９年３月２２日（水）／南日本新聞